

# L'aile d'Howl

【ライル・ドウル：ホウルの翼(伝説)】

2009年8月号



みんなの夏休みはどうでしたか？  
小学生、中学生もみんな暑い、暑い  
夏を過ごしたようですね！



1

## 中学生の暑い夏！燃えろ～！県中総体☆

去る7月18～20日、盛岡市体育館、盛岡市アイスアリーナを会場に  
県中総体が開催されました。3年生にとっては最後の夏！新人戦からの成長ぶりを発揮すべく各チームが  
熱い戦いを繰り広げました。

男子は春の全国大会に出場して勢いに乗る花巻北中が、トーナメント早々に松園中と対戦！互いに少年団時代から  
戦ってきた相手とあって一歩も引かない試合を展開し、松園中も新人戦の覇者に1点差まで詰め寄ります。大型  
エース安倍選手を擁する松園中が駒を進めるかに思われたゲームでしたが、花巻北中が王者の意地を見せ上位に  
進出します。逆ブロックからは新人戦で決勝を戦った花巻中、盛岡市中体を制した大宮中が準決勝まで勝ち進みま  
す。昨年同様決勝進出を目指す花巻中は、キャプテンの地主 GK が大宮中の選手とシュート後に接触し、足首を  
捻挫する怪我に見舞われたにも関わらず、最後まで必死にゴールマウスに立ち意地を見せます。しかし、大宮中は  
キャプテン佐々木選手を中心にスピードあふれる攻撃を展開し、堂々の決勝進出を果たしました。



その大宮中を決勝で迎え撃ったのが花巻北中。全校応援をバックにホーム  
コートで戦う大宮中は、相手のエースの齊藤選手、中花選手をマンツウ  
マンでマークしますが、花巻北中はどのポジションからでも点数が取れる  
幅広い攻撃で手を緩めません。要所で相手のノーマークシュートを阻んだ  
高橋 GK の活躍もあり、花巻北中が昨年秋の県新人戦に続き、2度目の  
頂点に達しました。チーム全員が坊主頭にして大会に臨んだ意気込みが  
結果として表れました！

↑シュートを狙う畠山航選手(花巻クラブジュニア OB)

一方女子は、県新人戦、大崎カップに続いて3度目の顔合わせと  
なる松園中と花巻中の決勝戦。大崎カップでは決勝で敗れたもの  
の、春の全国大会を経験して成長を見せたい花巻中は、  
キャプテン佐々木選手や藤原選手の足のある攻撃で積極的に  
攻撃を展開しますが、対する松園中も速攻や勢いのあるカットイン  
プレーで攻め続けます。

得点源のエース2人にどうしても頼りがちな花巻中に対し、  
松園中はどのポジションからもまんべんなく得点を挙げ、  
10点以上の点差をつけ堂々の優勝を果たしました。  
なお、準決勝で敗れた2チームが対戦し、勝利した  
矢巾北中が東北大会への出場権を獲得しました。



↑カットインで攻める高橋春香選手  
(花巻クラブジュニア OG)



その後に行なわれた東北中総体では、花巻北中が決勝で福島県代表・郡山一中に敗れ準優勝。また、女子は岩手県代表の3校が全てベスト4入りし、岩手県同士での準決勝、決勝の組み合わせとなりました。優勝・松園中、準優勝・矢巾北中、第3位・花巻中という結果でした。東北大会でも上位を占めた岩手県代表チームに拍手！

なお、女子の部で優勝した松園中は東北ブロック代表として、宮崎県で行われる全国中学校大会への出場権を獲得しました！

岩手の、そして東北の代表として頑張れ！

←スピードあふれる藤原千寛選手(花巻クラブジュニア OG)

2

## 編集長の全国大会視察日記～夏の京都是暑いぞの巻



さてこの度編集長は、毎年京都府京田辺市で開催されている全国小学生ハンドボール大会に視察に行ってきました！7月末に開催されるとあって夏の京都是非常に暑い！そんな中、今回は特別イベントとして、全国大会に先立ち、韓国の小学生チームを招待しての日韓交流試合が行なわれました。(参加する予定だった指導者講習会がそのためになくなったのは残念でしたが)このまたとない機会に、編集長はコートに最も近いモップ係をやりながら(!)韓国の小学生のプレーを間近に見てきました。



今回来日したのは韓国でもトップクラスのチームですが、単独の小学校チームで、日本の部活動のような形で毎日練習しているとのこと。しかも、とある小学校のチームなのに、ソウル五輪のメダリストが専属コーチとして指導しているとのこと！ディフェンスのフットワーク、GKの位置取り、ふくらはぎの筋肉のつき方まで、日本の中学生や高校生に勝るとも劣らない感じでした。

特に、女子チームのバックコートプレイヤーはフェイントが非常に切れ、ブラインドシュートも多用していました。ジャンプして落ち際に上のコースヘシュートを打つなど、「巧い」プレーが随所に見られました。この中から未来のペク・ウォン Chol選手が生まれるのでしょうか・・・



一指導者としての考えを述べますと、小学生のうちにはまずハンドボールを好きになってもらうこと、慣れ親しんでもらうことが大前提だと思います。本人たちが自ら厳しい練習を望むのであれば話は別ですが、小学生のうちから高校の部活動のような練習をしてはいわゆる「燃え尽き症候群」の原因となってしまいますし・・・



でもこんなことを言っているとライバルの韓国にいつまでも勝てないぞ！と言われてしまいそうですが。確かに学校の部活動ベースで練習している関東や九州のチームは非常に強いですし、東日本大会などで対戦すると、レベルの差をひしひしと感じてしまいます。「いかに楽しく練習して、なおかつプレーのレベルを上げるにはどうすればよいか？」という指導者の葛藤を感じながら、大会まで観戦してきた編集長でした。いつかは選手たちを連れて全国大会に来たいという希望を胸に秘め・・・

L' aile d' Howl (ライル・ドウル)  
2009年9月号  
2009年9月25日発行  
発行:花巻市ハンドボール協会